

3.災害派遣福祉チーム（DWAT）活動に求められる動き

今後の災害派遣福祉チーム（DWAT）活動に求められるもの

R5.3.31改正ガイドライン

①福祉避難所の開設・運営のノウハウを身に着ける

- * DWATの活動先として福祉避難所も位置づけられている。
- * 個別避難計画の推進と合わせ、福祉避難所の確保が求められている。

②保健医療福祉調整本部機能へのチーム活動の適応

- * 令和6年能登半島地震において、県本部、地域本部の指揮系統の中でDWAT活動の展開が必要であったため、仕組みへの適応が必要。

③災害時保健医療福祉活動支援システム（D24H）への対応

- * 避難所の状態評価、情報の入力、情報の分析を行うシステムが本格導入され、令和7年4月より厚労省の統一システムとして稼働。
- * 避難所の状態評価、情報の入力については、令和6年能登半島地震において既にシステムが使用され、同年の奥能登豪雨災害時も同じ様式を活用したヒアリングによる状態評価が行われている。

④避難生活支援リーダー/サポーター研修への協力

- * 内閣府が進めている避難所運営を支える住民サポーターの養成が令和7年度は45地域で実施を検討している。
- * 中長期に渡る避難生活支援のあり方、要配慮者支援の視点等、その活動に親和性があり、地域の体制づくりに協力が期待されている。

厚生労働省 社会・援護局長通知「災害時の福祉支援体制の整備について」の一部改正について (平成30年5月発出 → 令和5年3月一部改正)

- ・ 災害時の福祉支援体制構築を推進するために各都道府県が取り組むべき基本的な内容を『ガイドライン』として通知。
- ・ 今般の主な改正事項は、下記4点。

(1) DWAT派遣先（活動場所）の拡大

これまで 一般避難所



改正後 一般避難所及び福祉避難所

変更趣旨…タワーマンションが多く建っているような局地的な人口密集地域では、一般避難所が設置される想定はできず(その地域の居住者を収容できる規模の一般避難所を設置できない)、要配慮者を福祉避難所に集約して支援対応を確実に推進。

※参考;ガイドライン上の記述…「地域の実情や災害対応方針等により、チームを福祉避難所へ派遣しても差し支えない」

(2) 保健・医療・福祉活動に係る情報共有・連携等体制の構築

「大規模災害時の保健医療福祉活動に係る体制の整備について」(令和4年7月22日付、厚生労働省厚生科学課長・関係部局長連名通知)を踏まえ、情報共有の連携をはじめとした連携体制の構築、強化を図ることを明記。

(3) 感染症等対策の強化

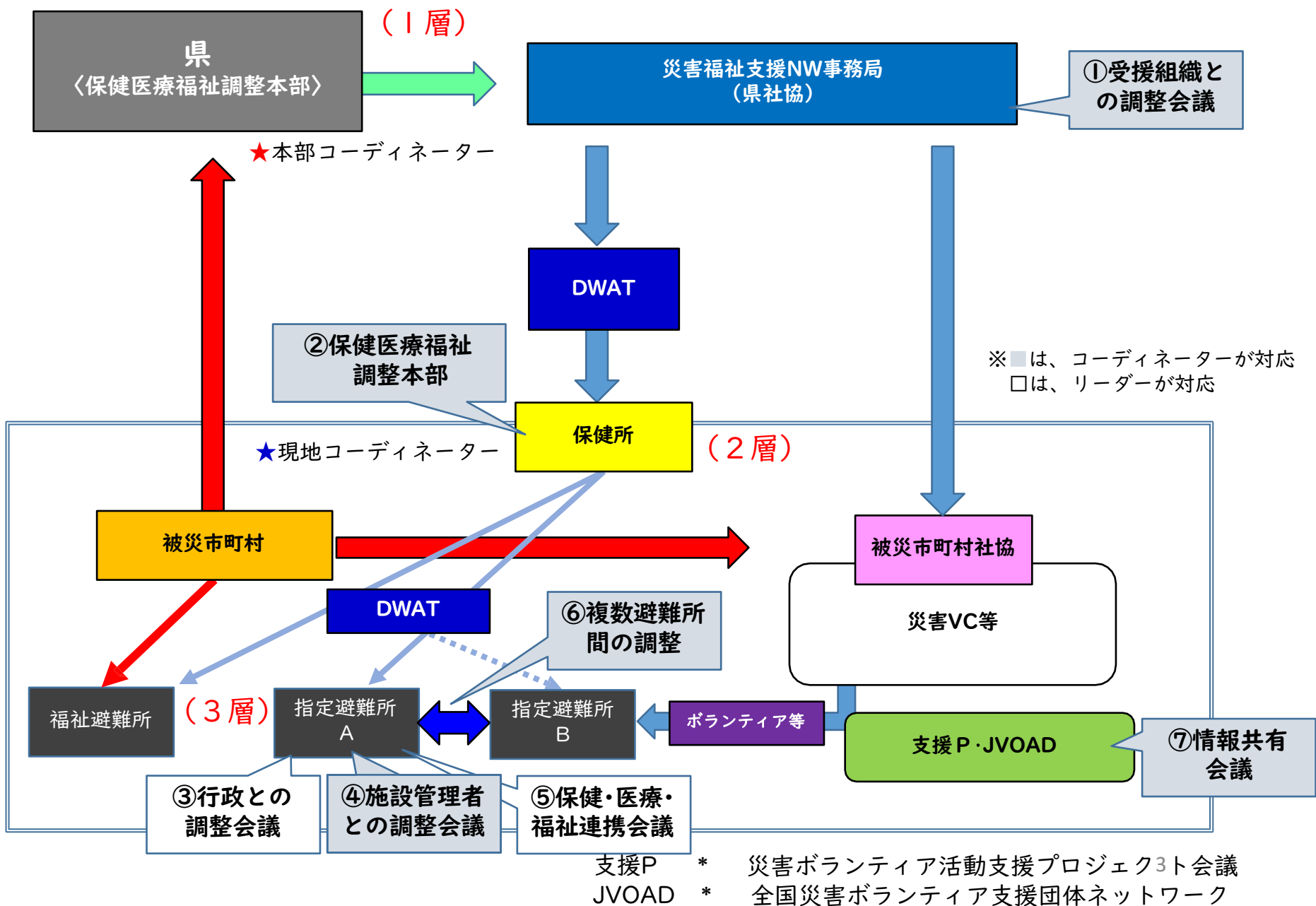
避難所内への手指消毒液や体温測定器の設置等の環境整備、チーム員のマスク・手袋着用、避難者に対する感染症予防の注意喚起等に配慮することが追記。

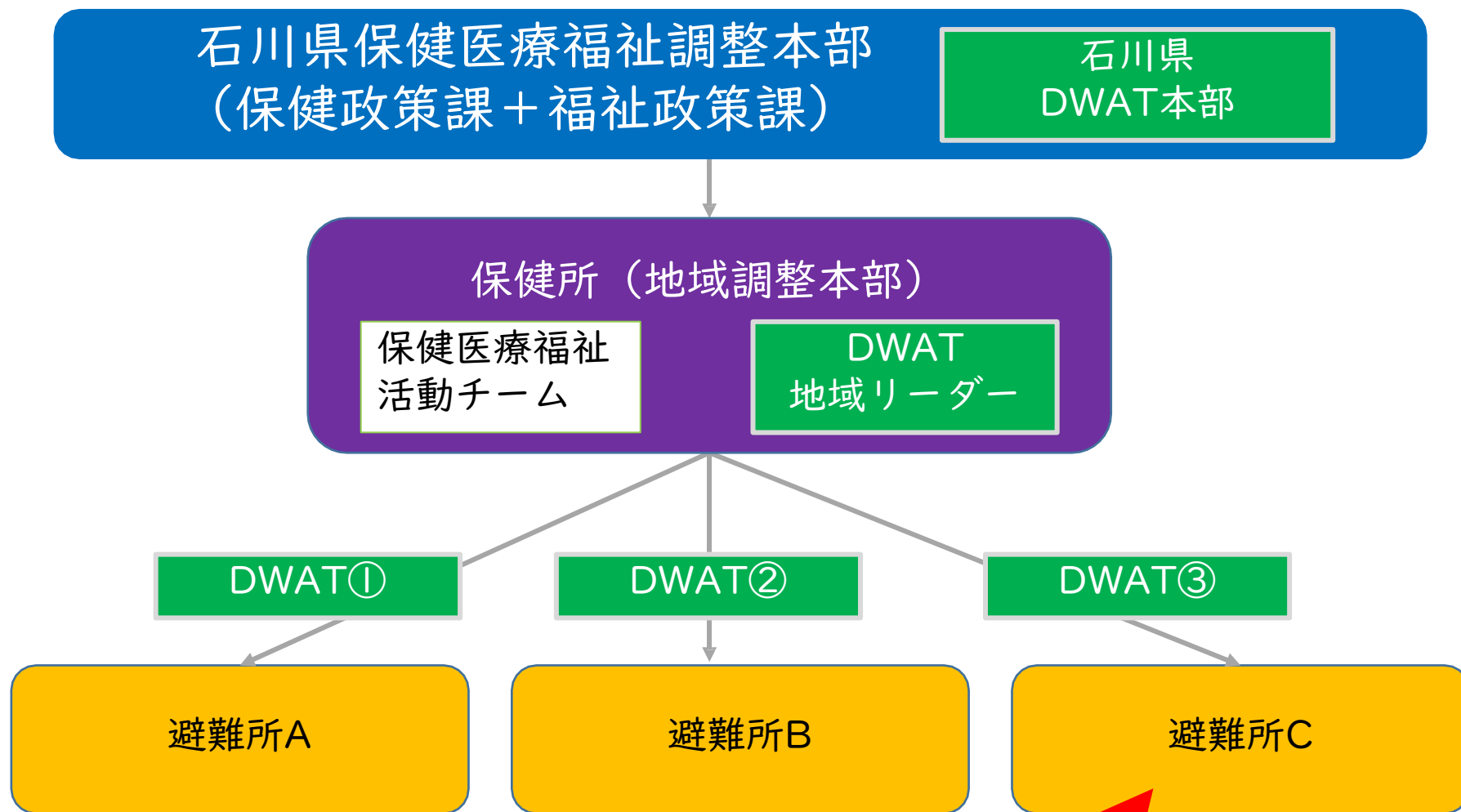
(4) 広域災害時の対応に向けた中央センターの活用

令和4年度に創設の「災害福祉支援ネットワーク中央センター」(全国社会福祉協議会が事業実施)の場を活用し、都道府県内の体制整備に加え、隣接する都道府県等とも連携の上、ブロック単位での体制整備も併せて推進。

広域的な災害時には、各都道府県のネットワーク本部と連携し、DWAT活動状況の集約や都道府県間の派遣調整等を、国が中央センターと連携して実施(連絡・相談窓口は、中央センターあてとする)。

②災害派遣福祉チーム（DWAT）活動展開にかかる関係機関との連絡調整イメージ



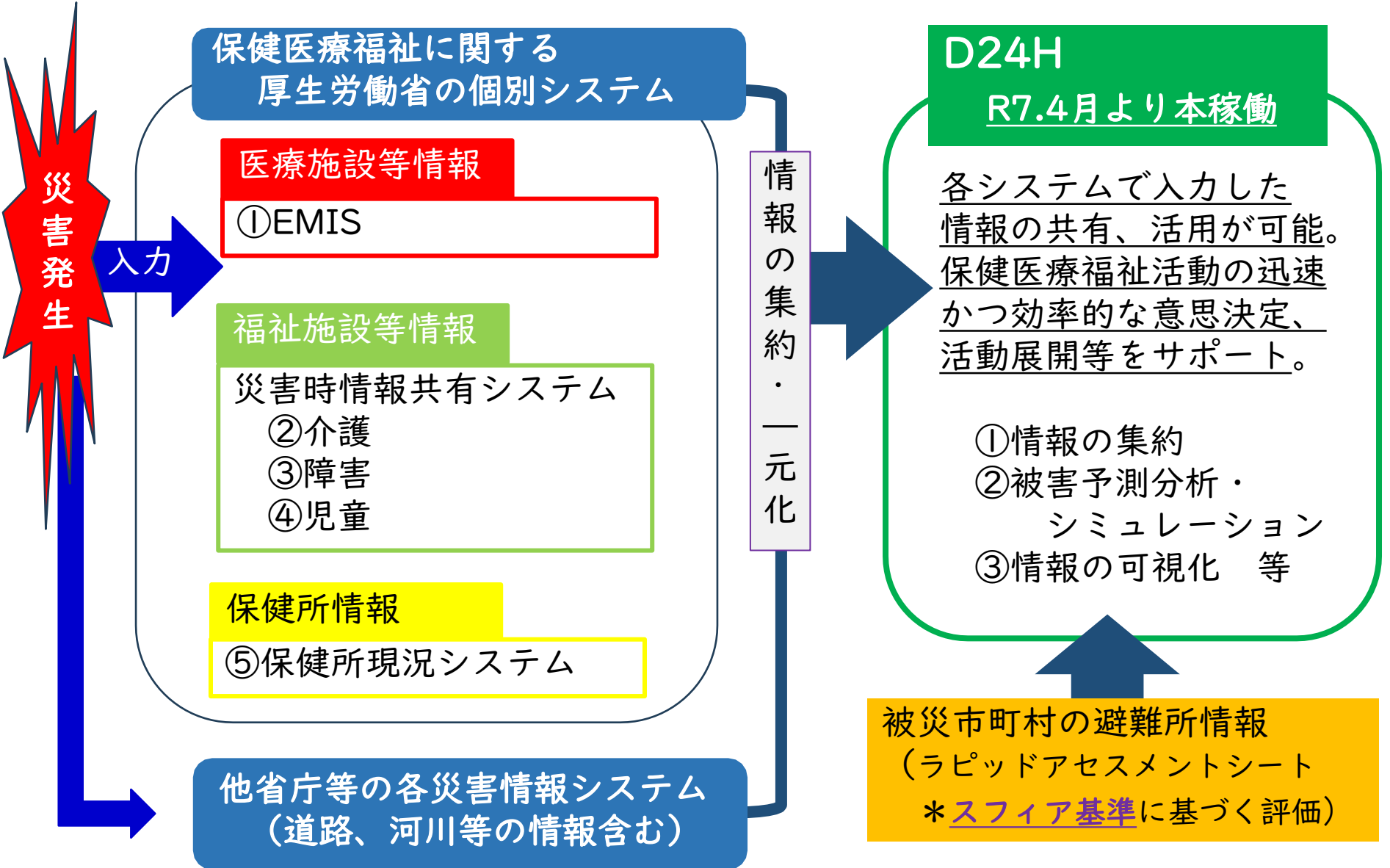


- ①福祉避難所への誘導
- ②要配慮者のアセスメント
- ③日常生活上の支援
- ④相談支援
- ⑤環境改善 等

避難所A、B、C以外に、福祉的な支援が必要な避難所があるかもしれません…

③災害時保健医療福祉活動支援システム（D24H）について

D24Hは、災害時保健医療福祉活動支援システムのローマ字表記から
Disaster Digital Information System for Health and well-being



施設・避難所等ラビッドアセスメントシート (OCR 対応様式)

□の欄は、使用可能・該当・対応済であれば、✓を入れてください ver.190115

* A: 充足 B: 改善の余地あり C: 不足 D: 不全

避難所コード									
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

調査日	2	0			年			月			日	#A-D選択式の項目が全てA評価になるまで連日記入
	AM				PM			時			分	

調査者氏名											調査者所属										
電話連絡先																					

施設名											固定電話											
所在地											携帯電話											
											FAX											
避難所運営組織											☐	代表者名										

避難者数(人)											内訳										
(A)											男性(人)										
食事提供人数											避難所以外の避難者数(推計)人										

※食事提供数(B) → 避難者数(A)

避難者数 (再掲)	避難人数(人)											夜間人数(人)											車中泊人数(人)										
	75歳以上(人)											未就学児(人)																					

ライフ ライン/ 通信	飲料水	A~D		食事	A~D		使用可能トイレ	A~D	
	電気	A~D		ガス	A~D		生活用水	A~D	
	固定電話	☐	携帯電話	☐	衛星電話	☐	データ通信	☐	
医療支援	救護所設置	☐	医療チームの巡回	☐					

避難所の 環境	遮断度	A~D		毛布等備具	A~D		室温管理	A~D		手洗い設備	A~D	
	トイレ 掃除	☐	土足禁止	☐	下水	☐	ゴミ 集積場所	☐	館内禁煙	☐	ベットの 収容所	☐
	男女別 更衣室	☐	男女別 トイレ	☐	男女別 居住スペース	☐	授乳室等	☐	母子専用スペース	☐	障害者用 トイレ	☐
	感染症予防・ 清掃用物品	☐	パーティション による区切り	☐								

その他 緊急事項												

- ラピッドアセスメントシートより

☐避難者数（昼・夜）

☐ライフライン/ 通信

☐医療支援

☐衛生環境

☐要配慮者（医療、福祉、外国人）

☐要医療サポート

☐有症状者

☐傷病者数

これらの情報から
何を判断するか？

●ラピッドアセスメントシートの評価基準（A～D）について

※A～Dの評価内容は、スフィア基準に照らして整理したもの

飲料水

- A. 1人当たり食事とは別に1日3L以上の飲料水量がある
- B. 1人当たり食事とは別に1日2L以上の飲料水量がある
- C. 1人当たり食事とは別に1日1L以上の飲料水量がある
- D. 1人当たり食事を入れて1日1L程度の水分摂取量がある

食事

- A. 米飯やパンなど主食が1日3回以上、おかずが1回以上避難者全員に提供されている（カレー、トン汁、弁当等含む）
- B. 米飯やパンなど主食が1日3回避難者全員に提供されている
- C. 米飯やパンなど主食が1日1～2回避難者全員に提供されている
- D. 避難者が持参した食料をそれぞれで食べている

令和6年能登半島地震におけるD24Hの活用例

日付:

yyyy/mm/dd

日付リセット

全施設表示

災害コード

24013 (令和6年能登半島地震)

に切替

帳票

避難所ラピッドアセスメントシート

に切替

都道府県

かみ、スパス区切り

市区町村

かみ、スパス区切り

緊急事項/メモ等校込

アセスメントありのみ

施設名

DATA DOWNLOAD

施設名

アセスメント実施日

調査者氏名

調査者所属

電話連絡先

代表者氏名

避難所運営組織

電話連絡先

避難者数(人) *A

*Aのうち男性

*Aのうち女性

食事提供人数 *B

避難所以外の避難者数

昼間人数

夜間人数

車中泊人数

65歳以上

未就学児

乳児

飲料水

食事

使用可能トイレ

電気

ガス

生活用水

固定電話

携帯電話

衛星電話

データ通信

救護所設置

医療チームの巡回

過密度

毛布等寝具

室温管理

手洗い環境

トイレ清掃

土足禁止

下水

ごみ集積場所

館内禁煙

ペット収容所

男女別更衣室

2024-01-05 17:23:00

坪野集会所

※

-

※

※

※

※

D

※

12

-

-

-

-

12

12

-

3

1

-

D

A

A

D

A

A

D

D

D

D

D

A

A

B

C

D

A

?

A

A

D

?

2024-01-05 19:48:00

花園小学校

※

※

※

※

※

※

A

-

11

-

-

11

0

11

8

0

6

0

0

B

B

C

A

A

B

A

A

D

A

D

D

B

A

A

C

A

A

?

A

A

D

D

2024-01-05 15:56:00

興徳寺

※

-

※

※

※

※

D

※

12

4

8

-

-

-

-

-

0

-

-

B

A

C

D

B

B

D

A

D

A

D

D

D

D

D

A

A

A

?

?

?

?

2024-01-02 15:21:00

崎山地区コミュニティセンター

-

-

-

※

※

-

-

-

20

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

2024-01-05 19:52:00

徳田地区コミュニティセンター

※

※

※

※

※

※

?

-

11

0

11

11

-

11

3

-

3

-

-

B

B

B

A

A

?

D

A

D

D

D

D

A

A

A

B

A

A

A

A

A

A

A

D

A

2024-01-05 14:02:00

田鶴浜体育館

※

※

※

※

※

※

A

※

191

85

106

191

-

120

60

0

60

7

1

A

A

B

A

C

B

A

A

D

A

A

D

A

B

A

B

A

A

D

D

A

A

D

A

2024-01-03 20:36:00

御祓地区コミュニティセンター

※

※

※

※

※

-

D

※

200

-

-

-

-

160

200

-

-

1

0

D

B

C

D

?

D

A

A

?

?

D

D

D

?

B

D

?

D

D

A

A

D

?

2024-01-02 13:37:00

田鶴浜地区コミュニティセンター相馬分館

-

-

-

※

-

-

-

-

18

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

2024-01-04 13:40:00

北大杵地区コミュニティセンター

-

-

-

※

※

-

-

※

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

D

D

-

B

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

2024-01-04 13:45:00

県立七尾東雲高等学校

-

-

-

※

※

-

-

※

60

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

B

D

B

B

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

-

※1 避難所情報を迅速に可視化するために使用しているラピッドアセスメントシートは『スフィア基準』に基づいてA～Dの区分が設定されており、Dは赤、Cは橙色で表示。

※2 D24Hを活用した研修は、DWATにおいても、群馬県、石川県、高知県、茨城県、香川県の5県で研修を実施しており、ラピッドアセスメントシートを活用した訓練は広島県でも実施している。



④避難生活支援リーダー／サポーター研修

- 内閣府では、災害の激甚化・頻発化等により避難生活が長期化する中、地域のボランティア人材に、避難生活環境改善のための知識・ノウハウを身につけてもらうためのモデル研修を令和4年度から開始。
- こうした取組を通じて地域のボランティア人材の発掘・育成を図り、発災時には行政職員や支援者等と連携し、良好な避難生活環境の確保を図ることにより、「災害関連死・ゼロ」の実現を目指す。

避難生活支援リーダー／サポーター

避難所運営の基本的なスキルを修得し、自治体職員や被災者とともに、避難所の生活環境向上に率先して取り組むことができる人材

- 避難所における課題や被災者の困りごと、変化に気づく力を身につける
- 被災者一人ひとりの声を丁寧に聴き、その心情に寄り添い、被災者とともに取り組む姿勢（伴走することが大事）
- 気づいた課題や困りごとを避難所運営に関わる多様な担い手と共有し、具体的な解決に向けて共に話し合い、サポートする

研修プログラム

1. 事前学習：オンデマンド講座＋テキスト

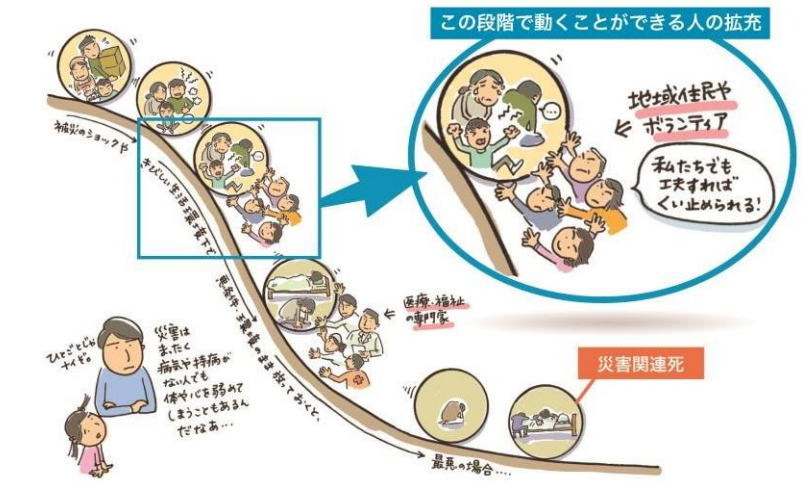
インターネット上で、8コマ（1コマ20分程度）の動画視聴、基礎知識等をテキスト提供

2. 避難所運営演習

2日間、4つの演習を通じて、避難生活の環境向上のためのスキルや被災者とのコミュニケーションの基礎などを学ぶ

- ① 多様な被災者の心情や状況の理解
- ② 避難生活の課題と生活環境の整備
- ③ 被災者とのコミュニケーション
- ④ 避難所運営の担い手との連携・協働

講師：避難所運営支援の経験豊富なNPO職員



これまでの実績・今後の展開



- 令和4・5年度に各県に公募を行い、11県（市町村）でモデル研修を実施。
2年間で延べ500名が受講（小学生から高齢者まで幅広い年齢層、障害のある方も受講）
- 令和6年度は、5県（市町村）で実施予定、さらに**追加募集を行う予定**
- **令和7年度の募集は令和7年3月頃に案内開始予定**

ホームページURL



令和4年度

岡山県 矢掛町（1万人）
群馬県 前橋市（33万人）
大阪府 吹田市（37万人）
愛知県 美浜町（2万人）
長野県 上田市（15万人）

令和5年度

広島県 広島市（120万人）
熊本県 八代市（12万人）
岡山県 瀬戸内市（3.6万人）
岐阜県 関市（8.5万人）
静岡県 島田市（10万人）
愛知県 岡崎市（38万人）

令和6年度

福岡県 嘉麻市（3.3万人）
青森県 八戸市（22万人）
岡山県 倉敷市（48万人）
長野県 箕輪町（2.5万人）
群馬県 館林市（7.4万人）

開催順、（）内は人口規模



追加募集の予定

研修の特徴

①演習・グループでの話し合いが中心

受講者同士が考え、意見を共有し、整理し、合意を得る一連の流れは、地域での活動や防災の取組、実際の避難所等でも役立てることができる

②様々なツールを活用してイメージを深める

避難所再現スペースなどは実際の避難所開設訓練、運営訓練でも活用することができる

③答えがあるわけではなく、一緒に考える

災害時の対応・置かれている状況に対して関わる人たちが、状況にあわせて判断、対応することに活かせる

受講者のフォローアップ

受講者（希望者）を対象に、「避難生活支援」に関する情報提供を定期的に行い、カリキュラムをふりかえり、理解度を高めるために、**メールマガジンを毎月発行**

- テキストを元にした防災クイズ
- 受講者へのメッセージコラム
- モデル研修の開催予定
- 内閣府主催の防災イベントの案内
- 研修テキスト、オンデマンド動画紹介等

フェーズの変化と求められるDWATの活動内容の例

～3日 〈先遣チーム〉	～1週間	～2週間	～1か月	～2・3か月
☐ 避難所アセスメント ☐ 管理者、支援チーム 関係機関との連携 ☐ 活動場所、時間、 人員の設定 ☐ なんでも福祉相談 ブースの設置 ☐ 避難所内環境整備、 要配慮スペース設置 ☐ 段ボールベッド組み 立て支援等環境改善	☐ 保健師とのラウンド 開始 ☐ 要配慮者の情報把握 (支援チーム間での 共有、関係機関と 連携) ☐ 福祉避難所、施設等 へのトリアージ ☐ 福祉用具の選定 ☐ 避難所MAPの作成	☐ フレイルに陥る避難 者の抽出、情報共有 ☐ 子ども等の遊び場 支援 ☐ アセスメント情報の データ入力・整理 ☐ 支援者の支援 ☐ 活動場所・時間・ 人員・派遣期間等 の再検討 ☐ 地元・社会資源の 確認・活用	☐ 避難者の行き先支援 ☐ 再アセスメント (住まい系情報を 追加) ☐ 後続クールの活動 ベクトルの調整	☐ フェーズ変化に 合わせた活動の縮小 (ライフラインの復 仮設入居等によ 難者数減少や授 開、避難所統合 ☐ 撤収に向けた避難 アセスメント ☐ 要配慮者の退所 ☐ 支援チーム、地 会資源との引継
			生活	再建へ向けた支 援活動

⋮

先遣チーム研修

各県の研修の中心

研鑽を深めたい内容